

## 2019年 1月度 売上速報

## ■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	99.5
阪神梅田本店	83.2
支店計	98.1
全店計	97.1

※ 阪神梅田本店が建て替え工事で、売場面積が前年比約2割減となっており、それを除くと、売上高前年比は、98.9%となります。

## ○ 全店の概況

- ・ 月前半のクリアランスの集客力低下と中旬以降の上位中間層の消費マインドの急速な低下に加え、阪神梅田本店のI期棟のオープンによる面積減等の影響により、国内顧客売上が前年比97.5%という結果となった。一方、インバウンドは、「中国電子商取引法」施行の影響等で減少し前年比92.9%となるも、全店に与える影響は軽微だった。
- ・ 支店は12店舗中4店舗が前年をクリア。昨秋オープンのライフスタイル提案型売場により集客力が高まった、西宮阪急が堅調も、阪急メッセ東京の売場改装によりマイナスの影響があった。

## ○ 阪急本店の概況 ※売上高が26ヶ月ぶりに前年実績を下回る

- ・ 高額なジュエリーや時計の動きがいい海外ブランドや、セレモニー需要が好調なドレスやコート、春色のニットなどが伸長した婦人服など婦人ファッション(101%)が堅調に推移したものの、その他カテゴリーは全般的に低調だった。
- ・ 阪急メッセ大阪は、海外ブランドのカジュアルスタイルが好調に推移。特にセーターやスウェット、Tシャツなどの軽衣料が好調持続。
- ・ インバウンドは、「中国電子商取引法」の施行等もあり、前年を下回った(94%)。
- ・ 100万円以上の高額品(128%)は、ジュエリーや時計などが好調で、海外ブランドの大口需要もあり、好調に推移。

## ※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2017年度			2018年度									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
阪急本店	107.3	108.4	109.6	110.8	107.8	104.5	100.0	108.7	100.6	106.8	100.0	107.2	99.5
阪神梅田本店	98.5	98.5	99.4	106.8	83.4	115.1	87.6	96.1	84.0	93.2	88.8	91.7	83.2
支店計	96.1	97.7	100.3	98.5	93.3	98.3	89.5	107.0	105.7	106.6	101.5	102.7	98.1
全社計	102.1	103.4	105.1	106.0	99.5	103.6	94.8	106.6	99.8	105.0	99.2	103.9	97.1

既存店計※	104.3	105.3	107.0	108.0	102.3	106.4	98.0						
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	--	--	--	--	--	--

※ 既存店計は、2017年7月末に閉店した堺 北花田阪急を除く

※阪神梅田本店除く全店計

108.0	102.4	106.7	100.6	105.5	98.9
-------	-------	-------	-------	-------	------

速報値

## ■ 食品事業

イズミヤ	売上高前年比(%)	阪急オアシス	売上高前年比(%)
全社計	94.6	全社計	94.3

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

<本件に関するお問合せ先>

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 広報室 TEL:06-6367-3181